

寺
こよみ

十月

- 一日 板屋講
二日 うらやま日曜学校
三日 市講

- 十九日 — 善巧寺報恩講
二十日 — 善巧寺報恩講
ホンコさん。十九日、お初夜の
晩は、寺に泊つて夜明かしま
しょ。

- 二十五日 秋の旅行 越後七不思議
二十六日 — 待ちに待つた寺の
参拝とちがつて、今回の旅行は、
善巧寺の門信徒だけの小旅行で
す。人数も二十人といどとして
マイクロバスで、楽しくやりた
いと思います。申し込みはお早
めに。

- 二十七・二十八日 萩生・称名寺
二十九日 — 東孤・新浜・板屋
三十日 — 報恩講

年に一度の報恩講まわりのはじ
まりです。

寺報 善巧

発行

938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善巧寺
宇奈月(07656)(5)-0055

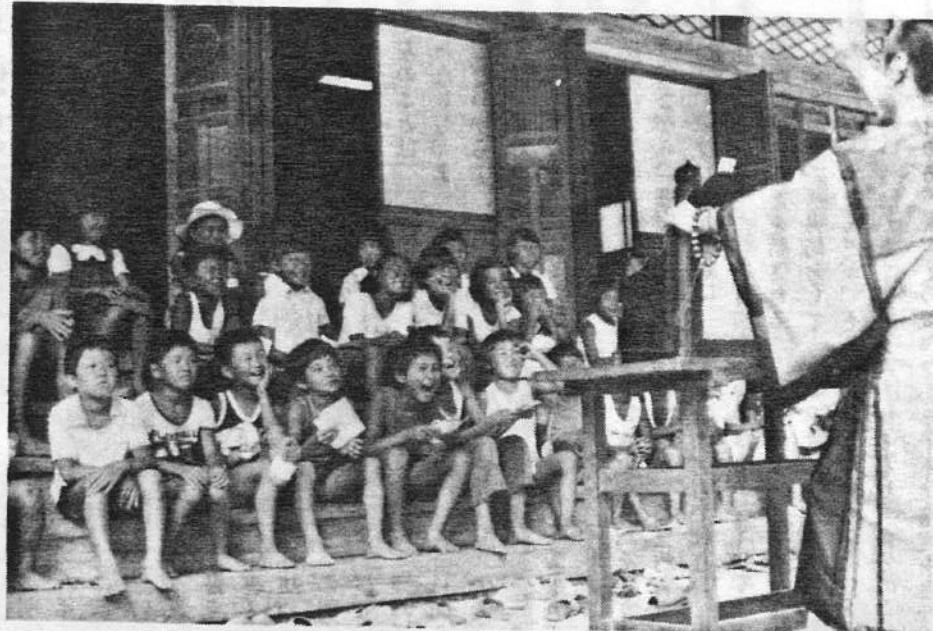
報恩講勤修

十月十九日深夜(左一時)初夜(右一時)
十月二十日晨朝(前八時)満座(右一時)

布教 新浜 浦田秀栄師
十月十九日深夜(左一時)初夜(右一時)
十月二十日晨朝(前八時)満座(右一時)

文を誦する時、毎年のこと
ですが、何か胸に込み上げ
てくる心地を抱くのです。
「悪時悪世界のいま、常没常流転
のやから、もし聖人の勸化をう
けたてまつらすば、いかでか無
上の大利をさとらん。」

本当に聖人のお言葉の一つ一つ
のお蔭で、無上の大利の中に、こ
うして、お式文をあげさせて頂い



われらは 仏の子どもなり うれしいときも
悲しいときも みあやのそでに すがりなん

来る十月十九日二十日と、恒例
の善巧寺報恩講が勤修されます。
三法要お待ち受け、第一年度に当
ります。
二十日の満座の法要には、私が
七條をつけて登高座して、巻物を
ひろげ、式文をあげます。門徒の
皆様も、此の情景は、屹度、頭に
あると思います。いわば、
二日に亘る善巧寺報恩講行
事のハイライトに当るところ
です。

この式文は、「報恩講式」と
と称され、本願寺第三世覚

如上人の述作です。私は、
三十年の間、一回も欠かす
事なく、此のお式文をあげ
て来ました。二十日のお満
座は、本堂に溢れるように
参詣の善男善女がつめかけ
ておいでになる。講内の僧
侶の方々が、両側に整然と
並んでいらっしゃる。その
中で、声を張り上げてお式

文を誦する時、毎年のこと
ですが、何か胸に込み上げ
てくる心地を抱くのです。

今年も、門徒、こそつて、
参詣して、聖人の恩徳を讃
嘆しましよう。

報恩講を迎えて

善巧寺の報恩講が終ると、

私達は、萩生、若栗、生地、三日

市、内山と夫々一日宛、講内のお

寺の報恩講に参列致します。そし

て、十月末からは、毎日、御門徒

各戸の報恩講廻りです。

先哲を偲びながら、私も、頑張
つて、大切な報恩講を迎える覚悟
です。住職 雪山 俊之

て居るわけです。

「入滅としはるかなりといへども、
往詣こそりていまだえず。あ
はれなるかな恩顔は寂滅のけふ
りに化したまふといへども、真
影を眼前にとめたまふ。かな
しきかなや徳音は無常の風にへ
だるといへども、実語をみ、
のそこにのこす。」

聖人の御声は直接聞くこ
とは出来ないが、御真影は
残っている。御書きくださ
れた御聖教はちゃんと残っ
ている。

右側、親鸞聖人の御影が安
置されているのを、皆様も
御存知でしょう。いろいろ
の形の絵像が残されていま
すが、善巧寺のそれは、

「真向きの御影」と称され
ているのです。

今年も、門徒、こそつて、
参詣して、聖人の恩徳を讃
嘆しましよう。

空と 草と

明教院
僧鎔伝

(2) 生家渡辺家をたずねて

国道8号線の上市川を浜側に折れて川ぞいにしばらくゆくと、水橋の新興住宅地に囲まれるようにして、市江という村がある。明教院の生家、渡辺家はこの村のほぼ中央にあつた。石垣と板べいをめぐらしたかわらぶきの落ち着いた農家である。

「ようこそ こられました」

迎えて下さったのは、七十七歳になる渡部彦作さんだつた。

「ほう、もうすぐ二百回忌ですか。わたしが父に連れられて、百五十回忌のお参りに、善巧寺へよせてもらつてから、五十年たつん

ですねえ」

彦作さんは感概無量のよ

うである。

「明教院さんは、わたしも、まごじいかからよく聞かされたものですよ」

といつて、代々伝わる家系の巻物をひろげながら、彦作さんはボツリ、ボツリと、渡辺家に語りつがれてきた、若き日の明教院のことを話される。

「この家の三男坊として生まれなさつたんだが、そのときのいい伝えでは、母

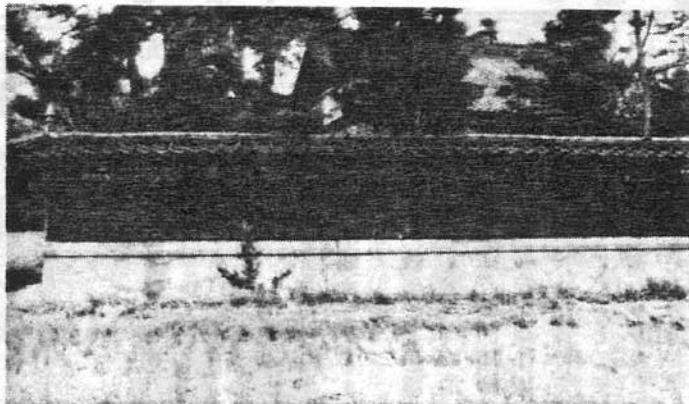
親が満月のある晩、そのお

月様をスーと飲み込んでしまいました。こりやあ不思議なこともあるものだとおどりいてたら、次のが明教院さんだつたそうですが」

生まれながらにしてただ人ではなかつたということを物語る伝説なのであろう。



明教院を語る渡辺彦作さん



明教院は、ここで生まれた。

明教院は、ここに生まれた。

彦作さんは、感概無量のよ

うである。

「明教院さんは、わたしも、まごじいかからよく聞かされたものですよ」

といつて、代々伝わる家系の巻物をひろげながら、彦作さんはボツリ、ボツリと、渡辺家に語りつがれてきた、若き日の明教院のことを話される。

「この家の三男坊として生まれなさつたんだが、そのときのいい伝えでは、母

親が満月のある晩、そのお

親が満月のある



うらやま日校

いと思うよう

(五年 田中貴恵)

わたしは、雪山さんの、日よう

学校に、かよっています。日よう

あるし、おやつもかみしばいもあ

ります。それに、8月21日に、い

るんな本が、ありました。わたし

は、さいしょ学校と、ついてい

たから、さんすうや、こくごを、

するのかと、思いました。でも、

こわくは、ないし、とても楽しか

つたです。

わたしは、初めての日曜学校の

時、おじゆずやせてんを持つて

なにをするのかと思うと、なにか

ほとけさまの歌のようなかんじが

しました。ほかの人たちは、ちや

んと聞いていました。

わたしもみんなとおなじようにし

ました。なにもかも初めて

なので、びっくりしました。

(五年 紙田照子)

わたしのが一番、楽しかった

ことは、ぼんおどりのけ

いこでした。

ぼんおどりには、出られ

なかつたけれども、れんし

ゅうだけで、せいいっぱい

でした。

しんらんおんどや、そ

らんぶしのおどりがおぼえ

られたので、よかったです。

(四年 大浦しのぶ)

わたしは、どんなことをするの

かと思っていました。おつとめも

終り、おやつの時間になりました。

でも、そのおやつは「こんぺいと

う二つ、おかし一つ」だけでした。

わたしは、たつたこんだけかと思

い、合掌して食べました。

だんだんなれてきて、おやつは
どんなに少なくとも食べられれば
いいし、ぜいたくをしてはいけな
いでした。

夏休みのアルバム



おどる所は、ち

ょうちんが、明る

い色を出していた

ので、とてもきれ

いでした。

空が、暗かつ

たので、ちよう

ちんと、とて

もあつていまし

た。

赤青緑色

みんな、うすく

なりまし

た。

中に電

きゅうが、入つて

いる

から、かわ

るんだな

と、思いま

した。

「つぎに子

ども、ぼんおどりを、

おどりました。

お父さん

と、お母さん

が、こんにやくみ

たいだと、わらつ

ていました。

わたしは、こんにやくみ

たいだと、わらつ

ていました。

ぼんおどり大会は、

ほんとに、楽しかったな

はじめます」

(五年 岩崎智子)

と言った時、

きれいにおど

れるかなと、

おどつてい

ました。

おどりを何べん

あってわたしは、ヨーヨー、アイ

スクリームを買

いました。

おもかたを着て行きました。

夜店が、

もしてひどかっ

たです。みんなで6

回ほどしました。

えい画がおもし

ろかったです。

わたしは、ヨーヨー、アイ

スクリームを買

いました。

スとあらいぐまラスカル

でした。

わたしは、

おもしろい。

また子どもぼんお

どりへ行こう

と思いました。

帰りは車で帰りました。

(三年 紙田ゆみ子)



日曜学校で、

いちばんおもし

ろかったのは、

きんぎょすくい

や、ようようも

おもしろかつた

です。そして、ち

いさいの子たちもはいつてじよ

うつていました。

それにおどりも

おもしろかつた

です。そして、ち

いさいの子たちもはいつてじよ

うつっていました。

おもしろかつた

です。そして、ち

いさいの子たちもはいつてじよ

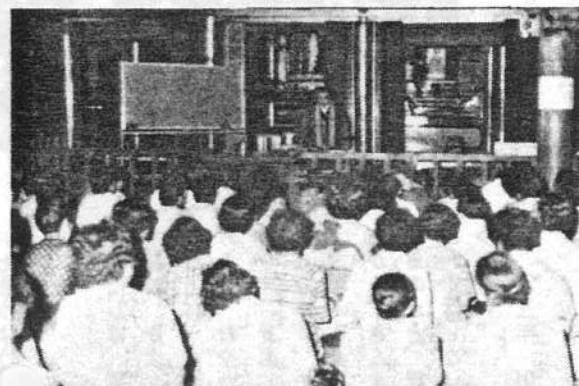
うつっていました。

（三年 岩崎勝子）

んめいがんばります。

(五年 岩崎智子)

お念佛の輪広まる



三法要の記念事業もいよいよ軌道に乗つて、五月の「初まいり」について、七月には「うらやま日曜学校」が開校され、同月末には新しい聞法の集い「夏の夜の一泊聞法」が催され、御堂は老若男女で満員の盛況。また八月には明教院ゆかりの大イチヨウのもとでの盆踊り大会もあり、お念佛の輪が一段と大きく広がったようあります。この夏の浦山・善巧寺のにぎやかだったところを、これから三ページにわたりてふり返つてみたいたいと思います。

寝具の長持底をつくり

一晩ゆつくり聴聞して、奈月、音沢、栗虫、入善、黒部などから、集まつた方は三百人を越かぬ時間に、気分新たにおつとめと法話を、午後八時。下立愛本から車五台に分乗してかけつけた「おつとめ 勉強会」のメンメン三十人が、この

ために、かなり緊張して
いたようですが、おつとめが終わると、「うちの村でもおつとめ会を」という声があちこちで出たりして、ホッとひと息。

つづいて太

祠堂会も盛況



も深い感銘を与えました。
夜の法座が終わって全員
のお食事。その間に「宇奈
語る会」のメンバーが、御

「長いこと寺にきているが、こんなに泊りが多いのははじめてだ」とうれしい悲鳴。

祠堂会も盛況

二十日までの一週間つとめられましたが、四十年もづけてお越し

死んでからのこととばかり思つて
いる同行がいるが、宗祖のお心は
それが半分、あとの中は、今日

また一段と盛

ていて下さるのです」というお話を

と題する師の話は、善導大師の一
河白道のたとえを引き、わたしした
ちが浄土へ至るには、いかにすべき
きかというもので、若い人たちに

三法要

宗祖 700回忌
御誕生 800年
明教院 200回忌

建設事業来春着工

善巧寺総代会は、八月十九日に開かれ、五
十一年度の一般会計の決算報告、五十二年度
の一般会計予算を別表、の如く決めました。

このあと、三法要の理事会にうつり、書院

と門徒集会所、それに関連する建設工事を、

いつ着工するかについて検討した結果、先に

出されていた青写真をもとに、物価の上昇なども考慮して、来春早々

にも工事をはじめるべきであるとの結論に達しました。

工事の段取りについては、建設委員会にまかせるが、業者に関しでは、出来るだけ善巧寺門徒の関係している業者にするようとの意向が出されました。

51年度一般寺費決算

支出の部	収入1,500,000 支出1,500,000
①本山納金	304,425
②寺務教化費	101,325
③火災保険費	80,000
④電気工事費	174,500
⑤水道工事費	133,550
⑥壁工事費	50,000
⑦除雪工事費	65,000
⑧暖房工事費	76,000
⑨燃費	92,700
⑩衛生工事費	20,300
⑪会通料	40,000
⑫雜用料	275,000
⑬事務費用	13,000
⑭法事準備費	74,200
合 計	1,500,000

52年度一般寺費予算

支出の部	収入1,500,000 支出1,500,000
①本山納金	300,000
②寺務教化費	100,000
③火災保険費	80,000
④電気工事費	100,000
⑤燃費	30,000
⑥維持管理費	50,000
⑦雜用料	40,000
⑧前住法事費	800,000
合 計	1,500,000

募財は昨年通り

8月総代・理事会で決まる

にも工事をはじめるべきであると

の結論に達しました。

工事の段取りについては、建設委員会にまかせるが、業者に関し

ては、出来るだけ善巧寺門徒の関

係している業者にするようとの意向が出されました。

この理事会の決定にもとづいて

建設委員会は正月早々にも会合を開き、これから段取りを決めるわ

けですが、三法要記念事業の第一

のヤマである書院、門徒集会所の

建設は、来春、雪解けを待つて着

工されることとはまちがいなさそう

です。

51年度一般寺費決算

支出の部	収入1,500,000 支出1,500,000
①本山納金	304,425
②寺務教化費	101,325
③火災保険費	80,000
④電気工事費	174,500
⑤水道工事費	133,550
⑥壁工事費	50,000
⑦除雪工事費	65,000
⑧暖房工事費	76,000
⑨燃費	92,700
⑩衛生工事費	20,300
⑪会通料	40,000
⑫雜用料	275,000
⑬事務費用	13,000
⑭法事準備費	74,200
合 計	1,500,000

52年度一般寺費予算

支出の部	収入1,500,000 支出1,500,000
①本山納金	300,000
②寺務教化費	100,000
③火災保険費	80,000
④電気工事費	100,000
⑤燃費	30,000
⑥維持管理費	50,000
⑦雜用料	40,000
⑧前住法事費	800,000
合 計	1,500,000

春秋の越後

10月25日 26日

費用2万・定員20名
申し込み受け付け中

みのりの秋に感謝する母と子
のおり大会が、九月二十三



ああ おいしかった！



合掌